※令和４年度以降入学生用

学校番号	1301

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「美術２」　（光村図書）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術Ⅱでは、描画スキルの向上を目的として、毎授業冒頭にて 10 分スケッチを実施しています。モチーフはターム毎に変化していき、徐々に形の捉え方や陰影表現の仕方が自然に身につくようにしています。
各単元では色・形の性質や特徴、人が観て受け取る時の感情など平面・立体を問わず造形分野の幅広い表現の仕方を知り、実践していきます。

2　学習の到達目標

造形的な見方や考え方を働かせ、制作活動を通して美術文化についての理解を深め、創造的な美術の表現をする資質・能力を次の通り育成する。

【知識及び技能】
　平面及び、立体作品で扱う素材や表現方法について理解するとともに、習得すべき技能を活用して、表現方法を工夫する力を養う。

【思考力、判断力、表現力等】
　制作の主題から、発想や構想を練る力を伸ばし、自分の考えや感じ方を広げたり深める力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】
　自分の造形感覚を養う中で、生涯にわたって物の見方を豊かに広げたり深めようとする姿勢を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	扱う素材や表現方法を理解し、身につけた技能をいかし実践できているか。	主題に対して、自分の発想や構想を形に残し、制作にいかす中で、自分の見方や感じ方を広げたり深めることができているか。	作品の制作過程の確認と、完成後の総括・観賞の中で、自分自身あるいは他者の作品に対して、より物の見方や考え方を広げたり、深めようとしているか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
ステージ１	色彩演習①　～色の配置性質を知る～	・画用紙に定規またはコンパスで 10 以上のマスを作り、色彩を施す。 ・各色の性質、組み合わせによる色彩効果を学習する。 ・自分で色のテーマを決めて行う。 ・混色の仕方や細部の処理方法などを学習する。	a: 各色の性質や配置・対比による効果を理解し、実践できているか。 b: 自分の決めたテーマに沿って色彩の配置や構成を工夫できているか。 c: 総括・観賞を通して作品の狙いや工夫点を詳細に確認しようとし、また、他者の作品に関して興味関心を持って積極的に良さを感じようとしているか。	作品	作品、ワークシート	ワークシート
	色彩演習②　～名画の模写～	・単一なトーンではない複雑な色彩の作品を模写する。 ・名画について時代背景や扱っていた画材について学ぶ。 ・①で学習したようなムラのない色彩表現以外の微妙なトーンの出し方を学ぶ。 ・正確に模写をする方法を学習する。	a: ・名画の時代背景と使用されていた画材と今回使用する画材のそれぞれの特徴を理解しているか。 ・模写の方法を理解し、実践できているか。 b: 色彩の微妙なトーンの表現を意識して自分なりに工夫して描画しているか。 c: 総括、観賞を通して自分や他者の作品を分析し、課題に思う点や良さなどを積極的に見つけようとしているか。	作品、ワークシート	作品	ワークシート

※令和４年度以降入学生用

ステージ２	色の性格　～感情に合わせた色彩表現～	・マス目に記載されている感情（幸せ、楽しい、悲しい、暗いなど）に合わせた色彩を自身で選び彩色する。 ・制作後、感情に合わせた一般的な色の性質について学習する。	a: ・制作の方法を理解し、実践できているか。 ・色の性質について理解できているか。 b:自身の作品に対して色の性格について詳しく分析ができているか。 c: 総括、観賞を通して自分や他者の作品を分析し、課題に思う点や良さなどを積極的に見つけようとしているか。	作品、ワークシート	ワークシート	ワークシート
	アクリル画演習　～心象風景～	・自分の心象をイメージスケッチし、別パネルにてアクリル画で表現する。 ・アクリル特有のメディウムを使用したマチエールをいかし、絵画の質感を表現する。 ・週毎に心象風景のテーマを変えても良い。（先週描いているものを塗りつぶしても良い） 最終的にたどり着いた完成図が自分の心象風景となる。 ・制作経過や完成作品の分析と他者作品の鑑賞も行い、表現に対しての理解をより深める。	a: ・解題の内容を理解し、実践できているか。 ・アクリル画材の特徴や扱い方について十分に理解しているか b: 制作経過や創作メモなどから、作品に対して十分に創意工夫がなされているか c: 作品の途中経過や自分や他者の完成作品から、積極的に分析や自分の意見を見つけ出そうとしているか。	作品、ワークシート	作品、ワークシート	ワークシート

※令和４年度以降入学生用

ステージ3	立体①　一輪挿し制作　～型流しによる立体造形～	・アクリル系樹脂材料と異素材を用いて幾何学的な立体の制作を行う。 ・立体展開図について理解する。(3パターンあり) ・観賞を通して作品の分析と平面にはない立体の良さを学習する。	a: ・材料の性質や扱い方について理解しているか ・型作りについて慎重かつ丁寧に仕上げができているか b: 材料の性質をいかしながら異物を組み合わせるなど独自の工夫ができているか c: 自分や他者の作品それぞれの形や異素材の合わせ方について分析し、自分の意見としてまとめようとしているか。	作品、ワークシート	作品、ワークシート	ワークシート
	立体②　オリジナルデザインオブジェ制作　～感情を形に～	・立体の形から伝わる感情について知る(丸み=優しさ、トゲトゲしい=苛立ち　など) ・自分が作る立体のイメージスケッチを行う。 ・表したテーマに沿って立体の型を作る。 ・①の技法と同様の型流し込みを行う。	a: ・立体が表す特徴について理解しているか。 ・型の制作方法を正しく理解し、実践できているか。 b: 自分のテーマに合わせた立体イメージを創意工夫して作り出せているか c: 総括、観賞を通して自分や他者の作品を分析し、積極的に意見を見つけ出そうとしているか	作品、ワークシート	作品、ワークシート	ワークシート

※　尚、毎授業冒頭にて10分スケッチを実施。3観点での評価は以下の通り。

a:スケッチについての技術的な留意点を理解し、実践できているか

b:線や面の表現に対して、留意点に沿って工夫しているか

c:スケッチに対して細部にわたって積極的に描こうとしているか。

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度